

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成25年(2013)11月10日
No. 71
発行 高津啓洋

ニームが一齐にかわいらしい花を咲かせて

レダにあるニームの木が、一齐に花をつけて、ミツバチも激しく飛び交い、ニームのおいしい蜂蜜の収穫も始まります。

また、ディアナ村では、植樹奉仕隊が植えたニームの木が、成長しています。その以前に植えられたエスペランサ村で

は、村のメイン道路にニームが林立して、人々の憩いの場ともなっています。



特に木を植える習慣のなかったインディヘナの人々にとって、植林は今までにない新しい体験です。雨の少ないチャコ地方は、時々水をやらなければなりません。家の近くのニームの木は良く水遣りが行き届いているのか大きな木となっています。

ニームが満開に

理事や役員等 宮脇博士の講演会に参加

関東大震災の瓦礫でつくった山下公園。この付近は、かつて港で異邦人が多かった洋風でおしゃれな館があります。

10月30日、秋晴れの夕方より、横浜開港記念館の一室で、宮脇昭博士の講演会がはじまりました。当会からも理事らが参加しました。席数が100名いっぱいになる程の盛況振りでした。

司会は、国際生態学センターの新川さん、そしてレナフォ理事長の高野さん。高野さんは長野に在住で当会と組んで、長野の飯綱高原で森の植樹祭をやったこともあります。

約1時間の宮脇博士の講演です。「森の防潮堤」について。3.11東日本大震災の後すぐに宮脇先生が国会へ緊急提言したものです。震災瓦礫をつかった、森の防潮堤は増税で騒いでいる日本に於いて、素晴らしい税金対策にもなります。未だに被災地に無惨にも積み上げられている震災瓦礫。処理するために、強い反発を受けながら、わざわざ県外へ運び出され焼却処分されて、地球温暖化の原因となります。それには多額の税金がかかっています。

震災瓦礫は地球資源であり、お亡くなりになった方の家の柱や家具が壊れたものだ。瓦礫を毒と分解不能なものとして、地中に埋めてそこに、土地本来の木を植えて、森の防潮堤をつくることで、使われる税金が大幅に削減されます。木を植えることで二酸化炭素が固定されるため、地球の環境保護にもなります。



参加した理事の感想「宮脇先生のお話しを初めて聞いたが、非常に上手に話されると感じました。その辺りの学者とは全く違う、「現場主義」の方だと強く感じました。」

緑の会2014年 カレンダーの注文

注文を受付中です。



私達の手で豊かな自然を守ろう 2014 (平成26年) 世界に広げよう植樹の輪

【お知らせ】 2014年度カレンダー。引落会員は12月に一部を郵送いたします。また一部100円で、追加注文もお受けいたします。